

# YAMANASHIの

## 先駆者を目指す



株式会社ユー・ファイブ  
代表取締役社長

上杉 隆昭 (高42回)

**私** が代表を務める株式会社ユー・ファイブと株式会社ユー・ファイブとBMW MINIと光岡自動車  
の正規ディーラー、福祉車両事業に従事しています。そ

して、自転車の販売業から歩みだした株式会社ユー・ファイブは、今年で創業109年を迎える事が出来ました。私が日川高校に入学したのは昭和62年。当時、普通高

校への進学を希望していた両親に、日川高校の受験資格が取れたと報告が出来た喜びは、今でも鮮明に覚えています。中学時代の担任から「日川高校への進学は難しいだろ

う」と言われていた私にとって、同校の入学は奇跡のようなものでした。そうして私は、大きな期待を胸に入学したのですが、先生方から事あるごとに言われたことは「君

は入学試験の合格ラインギリギリだった」という衝撃的な言葉でした。しかし今となつては、それが反骨精神となり、都会でチャレンジしてみたいという活力へと変化していったように感じています。高校卒業後、都内のインテリアデザイン専門学校に入学。興味のあることや好きなことにのめり込む性格もあり、デザインの世界に没頭した学生時代を送りました。在学中に出会った、アメリカの

美術家でポップアートの巨匠、アンディ・ウォーホルや、同じく1980年代のアメリカ美術を代表するアーティスト、キース・ヘリング、バスキアなどの世界観に大きく影響を受けて、友人と共に訪れたニューヨークが、その後の私の人生を大きく動かす事になりました。

2年後、再びニューヨークへ渡り、4年間の留学を経験。その後も海外での生活を繰り返し、通算15年もの月日を海外で過ごしました。高校時代に培った反骨精神で、語学やコミュニケーション能力を高め、幅広くインテリアデザインを学んだ結果、その後就職した日本企業では、グローバルビジネスや海外展開チームの一員として、日本のみならず、インドや中東バイでのプロジェクトに携われるようになっていきました。

自動販売機を軸に、3つのショールームを構えていた家業の職場には「切顔を切ったはならない」という父親の教えもあり、故郷山梨に戻る事なく、自ら選んだ道で必死に働きました。そして、ドバイで出会った経営者に声をかけてもらった仕事を切っ掛けに独立。彼が運営する世界一大きなショッピングモール・ドバイモール内のカフェでのデザインやメ

### 福祉車両・ 改造事業のはじまり

父親は幸いにも一命を取り留めることが出来ましたが、高次脳機能障害と半身不随という障害が残りました。も



留学 NY

